



Etherwave Theremin Standard ユーザーガイド moog

はじめに

テルミンは、手を空中で動かすことにより演奏する電子楽器です。この、「楽器に触れずに演奏する」という独特の演奏方法により、他の楽器では決して見られないユニークなサウンドとフレーズを醸し出します。そのムードは「幽玄」と表現しても良いかも知れません。また、この奏法により、他の楽器よりもはるかに自由な演奏が行えることもテルミンならではです。

テルミンを演奏するにはピッチやピッチの変化を聴き分けられる、いわば「良い耳」を養う必要があります。そのためには、ある程度の時間を割いて練習することが大切なポイントとなります。また、テルミンの演奏では両手を使います。ピッチ・アンテナに向かって動かす右手の動きでピッチを、ボリューム・アンテナに向かって動かす左手の動きでボリュームをそれぞれコントロールします。

Moog Etherwaveテルミンをご使用の際は、必ず指定の電源アダプターをご使用ください。また、テルミンのサウンドを十分に再生できるフルレンジタイプの楽器用アンプなどをご用意ください。

セッティングをする

Etherwaveテルミンを演奏するには、次の準備が必要となります：

- a. テルミンをスタンドに設置します。
- b. 2本のアンテナをテルミン本体に装着します。
- c. 電源アダプターをテルミン本体に接続します。
- d. テルミンとアンプを楽器用ケーブルで接続します。
- e. テルミン本体のパネルで音の調整をします。

各ステップの詳細は、このあとで説明します。なお、この各ステップは上から順番に行ってください。

a. テルミンをスタンドに設置します：

Etherwaveテルミンは、マイク・スタンドまたは90cm～1m程度の高さがある小さなテーブルに設置することをお勧めします。テーブルに設置しても演奏は可能ですが、できればマイク・スタンドをご用意ください。テーブルをご使用の場合は、テルミン本体の周囲には何も置かず、テルミン本体のみを設置してください。また、テーブルの端からボリューム・アンテナがはみ出るように本体を設置してください。マイク・スタンド、テーブルどちらをご使用の場合でも、テルミン本体をしっかり固定し、壁から十分に距離を取り、周囲に大きな遮蔽物のない場所に設置してください。

b. 2本のアンテナをテルミン本体に装着します：

テルミンには2本のアンテナがあります。真っ直ぐのアンテナがピッチ・アンテナで、テルミン本体の右側面から出ている取付部に装着します。取り付けナットをアンテナに通して取付部に差し込み、ナットを回して取付部に締めこみます。この時、手で締め込める程度の力で十分です（スパナなどの工具を使う必要はありません）。これで本体にしっかりと装着できます。

もう1つのU字形のアンテナが、ボリューム・アンテナです。こちらはテルミン本体の左側面にある2つの取付部に装着します。U字のカーブがはみ出ているほうが手前（演奏者側）に来るように取り付けます。取り付けナットはアンテナに最初から付いていますので、そのまま本体の取付部に差し込み、ナットを回してアンテナを固定します。この時もナットは手で絞め込める程度の力で十分に固定できます。

c. 電源アダプターをテルミン本体に接続します。

Etherwaveテルミンをご使用の際は、必ず専用の電源アダプターをご使用ください。この専用電源アダプターは、アースされた電源から14Vの電源をテルミン本体に送り出します。

電源アダプターの接続は、最初に3ピンのコネクターがあるほうをテルミン本体の背面にある電源ソケットに接続し、次に電源アダプターをコンセントに接続します。この時、コンセントの電源が確実にアースされているかどうかをお確かめください。電源のアース状況によってEtherwaveテルミンの動作安定度が変化しますので、ご使用の際はアースされた電源をお使いになることをお勧めします。

d. テルミンとアンプを楽器用ケーブルで接続します：

Etherwaveテルミンはステレオなどのオーディオや、PA機器、楽器用アンプを使用できます。本機のオーディオ・アウトプットの出力レベルは定格0.5V(RMS)、出力インピーダンスは2.4kΩです。

テルミンを演奏される際は、楽器用アンプをお使いになることをお勧めします。特に、シンセサイザーなどの使用にも適したキーボード・アンプはテルミンに最適の楽器用アンプです。テルミン本体と楽器用アンプとの接続には、楽器用ケーブル（楽器店などでは「シールド」と呼ぶこともあります）を使用します。ケーブルはプラグが1/4インチ（6.35mm）のフォン・プラグ（楽器店などでは「標準プラグ」と呼ばれることがあります）のものをご使用ください。

接続は、楽器用ケーブルの1/4インチ・フォン・プラグをテルミン本体の〔AUDIO OUT〕ジャックに接続し、もう一方のプラグを楽器用アンプのインプットに接続します。楽器用アンプ以外のアンプ等をご使用になる場合は、その機器の「ライン・イン」、「インストゥルメント」、「AUX」等と書かれているインプット端子に接続します。なお、「マイク入力」や「ギター入力」などのインプットは、非常に微弱な電気信号専用のインプット端子ですので、テルミンの接続には適していませんのでご注意ください。

e. テルミン本体のパネルで音の調整をします：

テルミン本体とアンプ等の電源を入れます。アンプ等のボリュームを小さめのセッティングにしておきます。次にテルミン本体の右側にあるピッチ・アンテナに触れたまま、テルミンの〔VOLUME〕ノブをゆっくりと上げていきます。この時、非常に高いピッチの音が聴こえてきます。〔VOLUME〕ノブを最大まで上げ、その状態から〔VOLUME〕ノブを少し下げた音がわずかに小さくなったところで止めます。

次に左手をボリューム・アンテナにゆっくりと近づけてみます。この時、テルミンからの音が次第に小さくなっていき、左手がアンテナから5～7.5cmぐらいの距離になると無音になります。

ここで左手をボリューム・アンテナから遠ざけてみましょう。音量が元の状態に戻りますが、右手はピッチ・アンテナに触れたままですから、ピッチは依然として高いままです。

ここで右手をピッチ・アンテナから離してみましょう。この時、テルミン本体の〔PITCH〕ノブを反時計回りいっぱい回します。これで非常に高いピッチの音が出ます。この状態から、〔PITCH〕ノブをゆっくりと時計回りに回していきます。すると、ピッチが徐々に低くなっていきます。ピッチがピアノの「中央ド」の1オクターブ下に近くなりましたら、テルミン本体から1歩後ろへ下がります。この時、テルミンのピッチが聴こえなくなるぐらいに低くなっていきます。

この状態から、ピッチ・アンテナと右肩との距離を約60cmに保ち、右手を下げた状態で〔PITCH〕ノブを注意深く調整してピアノの「中央ド」から2オクターブ以上低いピッチにします（中央ドの2オクターブ下のピッチは、チェロの最低音と同じド、ギターの最低音（ミ）より低いドになります）。

Etherwaveテルミンを演奏する

Etherwaveテルミンのピッチとボリュームは、2つのアンテナに向かって両手を空中で動かすことによって決まります。

ピッチは右手とピッチ・アンテナとの距離で変化します。ピッチ・アンテナに右手が近づくほどピッチが高くなり、ピッチ・アンテナから右手が遠ざかるとピッチは低くなります。

一方ボリュームは、左手とボリューム・アンテナとの距離で変化します。左手をボリューム・アンテナに近づけると音量が下がり、ボリューム・アンテナから左手を遠ざけると音量が上がります。

テルミンは、体の動きがそのままピッチやボリュームに影響しますので、演奏時は奏者以外の人はテルミン本体に近づかないことが重要です。演奏者以外の人はピッチ・アンテナから少なくとも1～2m離れたほうが良いでしょう。

テルミンの音色は〔WAVEFORM〕、〔BRIGHTNESS〕の各ノブで調整できます。〔WAVEFORM〕ノブでテルミンの音色そのもの（倍音構成）を調整し、〔BRIGHTNESS〕ノブでは〔WAVEFORM〕ノブで調整した音色の明るさを調整します。

正しい演奏ポジション：

まず、テルミン本体中央からやや左の位置に立ち、右腕をピッチ・アンテナに向けてまっすぐ伸ばした時に拳がピッチ・アンテナに触れる立ち位置が望ましいです。右手は体とピッチ・アンテナの間を水平に動かします。左手はボリューム・アンテナの上で垂直に動かします。

立ち位置が決まりましたら、本体パネルの〔PITCH〕、〔VOLUME〕の各ノブの状態をチェックします。まず、立ち位置を変えずにそのままの位置で両腕をまっすぐ体の側面に付けるよう下げます。この時、テルミンからの音は非常に低いピッチか、または聴こえないほどの低いピッチで鳴っているはずで

次に右手を右肩の位置に上げます。この時、テルミンのピッチはピアノの中央ドの2オクターブ下あたりのピッチになります。そうならない場合は〔PITCH〕ノブを調整して上記のピッチになるようにします。〔PITCH〕ノブは、このように演奏時のポジション（立ち位置）を決める際に使用します。つまり、右手を下げた状態でテルミンから鳴るピッチが極めて低い状態、あるいは音が聴こえないほどピッチが低くなる距離（奏者とテルミン本体の距離）を決める際に使用します。〔PITCH〕ノブを時計回りに回すと、この距離が相対的に短くなり、同時にピッチ・アンテナと各音程との間隔も短く詰まってい

ボリュームの調整は次の手順で行います：

左手をボリューム・アンテナから約20cm上に位置にします。この位置で、テルミンの音量がハッキリと下がるはずで

このピッチとボリュームの調整は、最初は少し時間がかかるかも知れませんが、何度か練習することですぐに、しかも正確に調整できるようになります。

テルミンの練習方法：

他の楽器と同様、テルミンの演奏も多少の練習が必要となります。まずは、次のシンプルなエクササイズから始めてみましょう：

1. テルミン本体の中央からやや左に立ち、右肩とピッチ・アンテナとの距離が約60cmになるように立ち位置を調整します。両方の手首をリラックスさせ、演奏したい音程を1つ思い浮かべながらハミングしてみましょう。それから、右手をピッチ・アンテナに向け、ハミングしている音程と同じになるポイントを見つけます。ポイントが見つかりましたら、その位置で静止します。
2. 今度は2つの音程を交互にハミングします。最初にハミングしている音程と同じピッチのポイントが見つかりましたら、その位置でしばらく静止し、次に別の音程に向けてゆっくりと右手を動かしてスライドしていきます。
3. ステップ2を繰り返し行いますが、今度は右手が次の音程に向けてスライドしている間に、左手をボリューム・アンテナに近づけてみましょう。最初は左手をゆっくりと、慣れてきましたら左手の動きを速めて2つの音程をつなげずに独立して鳴るようにコントロールします。このエクササイズでは、音程の位置を体で覚えることと、演奏にダイナミクス（音量の変化）をつけることが主な目的となります。
4. 1つの音程を演奏しているときに、右手を手首から前後に1秒間に数回の周期で揺らしてビブラートを付けてみましょう。この時、ビブラートの深さと周期が一定になるように意識を集中させます。

上記のエクササイズは、テルミン演奏の基本的なテクニックをカバーしたものです。つまり、音程のポジションを見つけ出し、2つの音程を正確に弾き分け、演奏にダイナミクスを付け、ビブラートも付ける、といったことが練習できます。このエクササイズを通して、ゆっくりとしたシンプルなメロディを演奏できるようになります。その後、この方法でスケールやアルペジオの練習を積むことにより、もっと自由に演奏できるようになります。大切なのは、正確な音程を出すこと、そして正確にダイナミクス・コントロールを行うことに集中することです。

テルミン演奏の基本をマスターしましたら、今度は自分なりの演奏スタイルを開発してみましょう。左手の動かし方を研究して、ダイナミクスの付け方や音量変化(エンベロープ)に工夫を入れてみましょう。また、2つの音程をスライドさせながら弾き分けたり、それぞれの音程を個別に、独立した1音ずつに聴こえるように弾き分ける練習を交互に行うことも良いエクササイズになります。この他にも、ピブラートをかけずに一定のピッチを演奏する練習や、ピブラートの周期や深さを一定に保つ練習もしてみましょう。これらのエクササイズはどれもテルミン演奏で欠かせない重要なポイントとなります。

本機の付属ビデオ「MASTERING THE THEREMIN」では、テルミン演奏の第一人者でありリディア・カヴィーナによるテルミン演奏と数々のエクササイズをご紹介します。テルミンの演奏テクニックを習得に便利な教材として、ぜひ活用ください。

Etherwaveテルミンは、「空中でコントロールする」というテルミン独自の演奏方法による様々な音楽的表現を自在に行えるよう設計されています。また、お使いのテルミンは長年の使用にも耐えられるよう設計、製造されています。テルミン演奏を通じて、演奏する喜び、オーディエンスを楽しませる喜び、そして音楽の楽しさを感じ取ってもらえれば、これほど嬉しいことはありません。きっと、テルミンを発明したレフ・テルミンも喜ぶことと思います。

本機の取り扱いについて

Etherwaveテルミンは、基本的にメンテナンス・フリーで何年でもご使用いただけますが、本機の性能を維持するため、以下の注意事項をよくお読みになり、これらを守ってご使用ください：

1. 非常に高温、あるいは低温の状況下で本機を使用しないでください。また、湿度が非常に高い環境下で本機を使用しないでください。本機の動作に悪影響を及ぼすのみならず、本機の性能を損ね、場合によっては破損を引き起こす可能性があります。
2. 電子回路や電子工作の経験に乏しい人による本機の内部回路やコントロール部の改造はしないでください。本機の性能を決定的に損ねる可能性があります。
3. 本機を落としたり、過剰な振動を与えないでください。破損の原因になることがあります。

また、故障の際の修理や保証につきましては巻末をご参照ください。

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。
記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路などのように機能維持のために必要な部品）の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product elsewhere. Any unauthorised modification or removal or original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 0570 (666) 569

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
WEB SITE: <http://www.korg.co.jp/KID/index.html>

KORG

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.co.jp>